

## 令和5年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文中学生の部 優秀賞(事務次官賞)

「土砂災害から祖父母を守るには」

佐賀県 佐賀県立致遠館中学校 1年 神武 梨乃

私の母方の両親（祖父母）は、長崎県五島市の福江というところに住んでいる。海などの自然がたくさんあって、観光できる場所ばかりだ。

しかし、福江に、猛烈な雨が降ったり、台風が来たり、小雨が降り続いた時には、祖父母の事が、心配になる。祖父母の家が山に近いところにあるため、土砂災害にまきこまれないかと思うからだ。

理由はそれだけじゃない。祖父は、あまり目が見えず、足も良くない。祖母は、体がそこまで大きくない。二人とも高齢なため、もし、急に山から土砂が流れてきたら、のみこまれてしまうのではないだろうか。考えただけでも、怖くなってしまう。

最近、他の県で土砂災害が起きて、人が亡くなってしまったという悲しいニュースもあった。土砂と木々が家をおしつぶしている映像を見た時、私は初めて

「他人事のように感じてはいけない。」

と思った。このニュースを見て、

「かわいそうだね。」

で、終わってはいけない。その災害が起きる度に、自分が同じような状況になったとき、すぐ逃げられるのかという事を考えて、備えなければいけない。

そう思った私は、本当に祖父母の住むところで、土砂災害が起きたとき、すぐ、その場から逃げのための街づくり・地域づくりができているのか、知りたくなった。

それをどうやって調べるか悩んでいるときに、母が福江の「まちづくりアンケート」の結果が載った広報誌を見せてくれた。見てみると、福江の防災活動についての課題が二つあった。

一つ目は「不安に感じている事・困っている事」について。医療体制や進学・進路などが問題点として上位に挙がっている中「災害や避難」というものも上位に入っていた。二つ目は「実施している活動に対する満足度と重要度」について。こちらは「避難活動・連絡体制など、防災活動」が、重要度が高く、満足度が低いという事が分かった。

この結果から、福江は、災害の備えが十分にできていない事が感じられる。このままでは、本当に災害が起きたとき、たくさんの方が亡くなってしまう。

それに、福江は、少子高齢化が進んでいるため、少ない若者の力で、高齢者たちを助けるとなると限界がある。しかも、災害が起きた時は、焦ってしまうので、冷静な判断ができなくなる。逃げなきゃいけないという気持ちが先走って、危険なところに行こうとしてしまう事もある。

自分や家族のいのちを守るためにも、防災活動をしたほうが良いと思う。

「防災活動」と、ひとくくりにまとめているが、内容はいろいろある。例えば、避難訓練や防災グッズの確認。他にも、実際に土砂災害が起きたときの避難方法や集合場所、連絡方法の確認をしておくといいそうだ。

でも、それだけでは、一人暮らしのお年寄りなどは、土砂災害が起きた時、逃げ遅れるかもしれない。そして、最悪の場合、誰かがその人を見かけて助けようとしている間に、どちらの人も、命を落としてしまうかもしれない。

もちろん「自分の命は自分で守る」という事が大切ではあるが、日頃から、近所や地域の人たちの事を、情報交換して、お互い知っておく事が大切だ。これをしておけば、近所とのつながりができて、自分たちの住む「地域づくり」ができる。どの地域でも、この活動をすれば、土砂災害が起きた時に、どの人がいないかなどが、すぐ分かるようになると思う。

文章中にも出てきた「まちづくりアンケート」を見ていたら「隣近所とのつき合いがわずらわしい」という意見が、割合の約半分をしめていたり「地域内の助け合いなどの社会関係」を誇りに思っている人は、5パーセントしかいない事が分かった。

## 令和5年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文中学生の部 優秀賞(事務次官賞)

まだまだ、きちんとした地域のつながりができていない。それが、福江の人が、災害に対する不安の理由である。

これからの土砂災害から祖父母を守るには、どれも日頃からの「備え」が大切なんだと、改めて思った。防災について、家族と話し合ってみたい。